

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400762		
法人名	社会福祉法人 宝寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームゆうゆう		
所在地	兵庫県神崎郡神河町福本字中茶屋山 1241-3		
自己評価作成日	平成29年3月31日	評価結果市町村受理日	平成29年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyougo-kai.go.com/
----------	---------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町 8-8-104
訪問調査日	2017年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かで、四季の移り変わりが感じられ、静かな環境に恵まれている ・食事は職員が中心になって作り、季節感を感じる献立を工夫している。 ・食材料の買い物は、二日に1度町内のマーケット数件で、購入し、入居者が同行する事もあ る ・入居者の誕生日は一人一人その日に行い、希望の食事やケーキで祝っている。 ・ボランティアによる習字・歌唱・体操・紙芝居・映画上映等で、交流を図っている。 ・訪問看護との契約により、ご本人・ご家族の意向に添った看取り介護ができるようになった。 ・併設特養との連携により、重度化した場合、申し込みにより移る事も可能である。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の玄関には、利用者が若い頃に描いた風景画や、家族が撮ったプロ並みの写真、和装の帯地を折紙にして利用者が職員と一緒に作ったカブトなどが、センス良く飾られている。来訪者は、利用者がリビングの大きなテーブルを囲んで静かに語らっている様子に、懐かしい家庭的な雰囲気を感じる。食事の準備では、エプロン掛けの利用者が慣れた手つきで職員の調理を手伝う。食後の下膳やテーブル拭き、食器洗い、床掃除、洗濯たたみ、玄関前の掃除など、職員が見守る中、利用者それぞれが出来る範囲の役割分担をしながら、共同生活を楽しくしている。事業所の理念である「利用者が職員と共に楽しみを持ち、自分らしく暮らせるホーム」が、実践されている。今後重度化していくと思われる利用者に対するケアの面で、訪問看護師との更なる連携に期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

平成28年度

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者が職員と共に楽しみを持ち、自分らしく暮らせるホームを目指します」という、理念のもとに、管理者、職員がその理念を共有し、理解たうえで、日々の業務に取り組んでいる。	法人の理念を踏まえた事業所の理念を掲げ、パンフレットに記載して对外発信するとともに、事務所に貼りだして職員に周知している。又、事業所とユニット毎の年間の支援目標を職員で考えて策定しており、達成度を年度末に振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地元小学校の訪問交流や、地元高校のボランティア実践授業の受け入れをしている。 ・町の文芸祭や文化祭には、作品を出品、見学し、芸能発表会も観に言っている。	毎年、小学生と高校生が訪問して、歌や踊り、散歩の付き添い、手作りの作品のプレゼントなどがあり、利用者は楽しみにしている。地域の事業所の職員の有志で作っている「楽護会」では、講師を招いて高齢者ケアなどの勉強会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・キャラバンメイトとして管理者が登録し、有志と共に認知症サポーター養成講座を開催した。 ・「地域サロン・らくや」では、職員と入居者が参加し、認知症の方が地域で交流する場ができています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・特養の地域密着サービス・ユニットと合同で運営推進会議を行っている。 ・スライドでの行事報告、入居者状況等を伝え、その後、意見交換をしている。民生委員の協力で地域の集まりに参加している	年3回開催し、家族、地区代表者、民生委員、町役場、地域包括が参加している。会議では事業所別の分科会の時間も設けており、看取りに関する事業所の新しい指針などを説明している。議事録は、事業所内で閲覧できるようにしているが、町役場以外には配布していない。	議事録を会議の委員と全家族に送付されたら、会議への参加促進材料にもなるのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議に、町担当者が出席し意見交換している。 ・町、社会福祉協議会等が主催の講演や勉強会には出来るだけ参加し、情報を得たり、意見交換をしている。	町役場や地域包括とは、運営推進会議を通して関係性を築いている。認知症サポーター研修の会場を事業所が提供し、地域包括も参加して状況説明などを行った。地域の事業所連絡会は現在中断している。地域ケア会議には、出席出来ていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設の方針として身体拘束はしない。 ・職員研修で学ぶ機会があり理解している。職員間で、声をかけ合い、ケアを行なっている。 ・玄関の施錠については、安全面を考慮し夜間は施錠している。	毎年研修を行い、拘束排除の必要性を職員に周知している。現在、拘束に該当する事例は無いが、センサーマットなどの使用に当たっては、家族に了承を得るようにしている。使用の開始や継続の必要性に関して検討した内容を記録していない。	拘束する場合の手順書を作成したうえで、拘束が常態化しない様に検討した内容と、家族からの了承を、記録として残して頂きたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員研修の中で学ぶ機会がある。 ・日頃から、入居者の身体上に変化がないか観察し、あれば職員間で話し合い、防止に努めている。	利用者を手引きする際に、手首が内出血する場合があります。職員で注意し合っている。利用者には不快感を与える声掛けに気付いた際には、管理者が都度注意している。管理者は、職員会議や個人面談の中で話しを聴く機会を作り、職員のストレス軽減を心掛けている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護に関するパンフレットを備えている。以前、入居者で該当するケースがあり、包括支援センターにも相談をしていたが、実現にはいたらなかった。	現在、制度を利用している事例は無い。法人のケアマネが研修を行った際の資料をファイルしているが、契約時に制度の説明は行っていない。職員の知識レベルは高くないと思われる。	制度について簡単に説明した冊子を取り寄せ、契約時に家族へ渡したり、職員の研修材料として活用されたらどうだろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、サービス内容についての説明を丁寧に行い、不明点や不安がないか時間をかけて説明している。オムツや日用品費用について、特養との違い等も説明している。	殆どが契約前に見学をしており、約2割が利用者も一緒の見学となっている。事業所の雰囲気を感じて貰うために、3時のお茶の時間頃まで滞在する事例も有り、納得のうえでの契約となっている。居室が空いていれば、泊りの体験希望も受け入れる。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議での話し合い・意見交換の他に、年間行事に家族を招待し、話ができる機会を設けている。	バーベキュー大会やふれあい祭りには殆どの家族が参加する。特に、遠方から訪問する家族とは、個別に話を聴く様にしている。利用者個々に関する要望が殆どで、事業所の運営に反映させるようなものは無い。満足度調査などのアンケートを実施した事は無い。	家族のナマの声を聴く手段として、アンケートを取る工夫をされたらどうだろうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のホーム会議で職員の意見、提案を出せる機会を持っている。日常でも、ホーム内の備品や業務の見直し等、意見が出、改善している。	毎月の職員会議の中で意見を聴くようにしている。コピー機の機種選定、安全な物干し用品の購入、利用者向けへの献立の貼り出し、トイレのタオルを常に清潔に保つ為の交換時間の取り決めなど、事業所の運営に反映した例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年1回の自己評価と自己目標の振り返り、及び新たな目標を設定することにより、それぞれが向上心を持てるよう働きかけている。パート職への日曜日手当、残業手当、年末年始手当の支給。処遇改善手当の支給。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・採用後の新人研修。毎月のスキルアップ研修・職員研修。必要に応じて外部研修の機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域事業所の有志で立ち上げた、「楽護会」での勉強会に参加する職員。そこで、意見交換や交流が行われている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接に於いて、現状での身体面・精神面・共同生活が可能で有るかを見極めさせて頂き、ご本人の思い等も聴き取る機会を作っている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族・ご本人の思いや希望等を聴き、双方に大きな違いが無いか確認した上で受け止める様な、関係作りに努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活に問題は無いが、身体の状態が変化する事も踏まえ、聴き取りの段階で見極め必要に応じて、他のサービス利用の情報提供にも努めている。特養への申し込み等も視野に入れ、話を聴いている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・園芸等、日常生活の中で昔ながらの知恵・知識・経験を踏まえながら、共に暮らす者としての関係作りに努めている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回お便りで、身体状況や日頃の様子を連絡し、急な変化時は、その都度連絡し家族と相談の上協力して頂いている。家族との楽しい時間を過ごして頂ける様、行事等の参加の声かけもしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	食材の買い物や催し物に参加し、知人と出会う機会がある。 馴染みの方の訪問の際は一緒にお茶等飲んでいただく等、明るい雰囲気作りを心がけている。	数名の利用者が年賀状を書いており、職員が宛名書きなどを手伝った。今後「絵手紙」教室が始まるので、家族や知人に葉書を出す機会が増えるであろうと、管理者は考えている。利用者は、定期的に訪問して来る近隣からのボランティアと、習字、歌唱、体操、紙芝居、映画上映会などを通じて、馴染みになっている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくホールで一緒に、作業・レク等が出来る様努めている。 入居者様それぞれの個性を把握した上で、職員が間に入り良い関係で関わられるよう努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の希望、身体状況により併設特養に移られる事も有るが、その後も様子を見に行き必要であれば情報を伝えている。ご家族とも、その後の様子について、会話ができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族への電話や外出・外泊の希望には、家族と連絡を取り合いながら、応じられる様調整している。	ごくわずかであるが、コミュニケーションが難しい利用者が有る。利用者の朝からの様子を見守る中で、細かい表情や仕草、ベッド上の横臥の方向、車椅子の座位の姿勢、などから意向を汲み取り、職員間で情報共有をしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメント・ケアカンファレンスにて本人および家族・ケアマネージャーから情報を得ている、 また、家族が訪問された時に伺ったり、日常会話の中で汲み取ったりして把握に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活動作記録表・引継ぎ帳・訪問看護記録 ケース記録により入居者の心身状態の把握に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアプランには本人・家族の希望や意見を聴き取り入れている。 ・主治医のアドバイス、ケアカンファレンスにて職員と話し合い介護計画を作成している。	全職員が、ユニット内の全利用者のケアを担当している。基本、半年毎にケアマネとユニットリーダーが介護計画を作成している。各ユニットで開催するケア会議で、利用者の状態を話し合っており、モニタリングの役目を果たしているが、計画で策定されたサービス内容と必ずしも連動していない。	介護計画の作成に当たっては、家族の要望も聴き、内容の承諾を得るとともに、計画の内容と連動したモニタリングを実施されるようお奨めします。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録には、食事摂取量・水分摂取量・バイタル・排泄状況・日課・外出・訪問状況・ケース記録を記入している。 ・個別に受診記録ノート・訪問看護記録ノートも作っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族の希望で入居者の居室に宿泊する事は可能である。 ・急な外出・外泊希望にも対応している。 ・併設特養の行事にも参加している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の民生委員の協力で、入居者が地域の集まりに出られている。ふれあい喫茶の存在。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前からのかかりつけ医へ、受診している。家族が付き添っているが、遠方で無理な方には職員が付き添っている。また、車椅子の方には病院までの送迎もしている。	入居前から協力医がかかりつけ医だった利用者が多く、医師とは相談や情報交換しやすい関係性にある。通常は通院しているが、終末期は往診体制をとることが可能である。今後、訪問看護師も含めた担当医との連携が課題だと考えている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回の訪問看護の際には、入居者のバイタルチェックに加え、排便チェックを行なわれている。また、個々の受診状況、気になる体調の変化等相談、アドバイスをもらっている。その後、受診に繋がる事もある。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時の情報提供に加え、見舞い等で様子を把握している病院主催の。オープンカンファレンスに参加し、顔の見える関係作りに努めている。	入院時は、病院の地域連携室を通して情報交換や相談を行っている。また、退院前カンファレンス時は、必要に応じて看護師と共に参加し、利用者・家族の希望が叶うよう支援している。状態によっては早期退院し、事業所でリハビリを継続することもある。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合、どこで最期を迎えるか、少しずつ家族と話あっている段階である。本人・家族の思い・意向を聴き、病院での看取り、ホームでの看取りを経験した。	訪問看護師との医療連携実施により、3年前より終末期の対応が可能となった。看取りの研修や、緊急時の対応などの研修を重ね、看取りを経験していく中で職員は、看取りは命のバトンを受け取ることであったことや、尊厳についても考える機会となっている。看取り後はデスカンファレンスを実施し振り返りを行っている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員研修で急変時の応急手当について、学んでいる。応急手当のマニュアルも設置している。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・併設特養と合同で火災訓練を行っている。 ・大雨の時には、地域の消防団の見守りがある。 ・水害・土砂災害を想定した、避難訓練に付いては、今後の課題である。	前年度は、敷地内の法人と合同で昼と夜間想定火災訓練を2回実施した。しかし、振り返りや、評価は十分に行われていない。管理者は、グループホーム独自の訓練により課題を明確にする必要があると考えている。裏山の土砂災害の危険があり、兵庫県の研修会に参加し学んでいる。	事業所独自の火災訓練を実施し、課題の共有化が図られることを期待したい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活で自尊心を傷つけない言葉かけを行う。 排泄入浴に声かけに気配り行う。	特に利用者の行動を制限する声かけには気をつけ、職員間で注意し合っている。またユマニチュード技法を学び、尊厳ある人としての関係性を重視している。個々の利用者が残存機能に応じた役割を主体的に選択できるよう支援し、利用者は独りの時間を楽しみつつ、無理なく生活者としての役割を自ら選択し暮らしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己の思いや希望を話せるような環境を作り働き掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその人に合ったペースを大切に、少しでも希望に添える様な支援を行う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の生活歴等も念頭に置きその人らしさが出る様支援する。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい雰囲気で作事が出来る様食事作りに努める。入居者同士で役割分担ができる。	ユニット毎に利用者の好みを取り入れ、旬の食材や彩り、器にこだわった手作りの食事が提供されている。また、買い物、調理、配下膳、食器洗いなど自然に利用者の中で役割分担され、生き生きとした様子がみられる。職員も共に食事をし、家庭的な雰囲気の食事風景となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合った量、水分量を考えて摂取していただいている。ミキサー食に変え摂取できるよう努める。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る力、又介助の必要は方(2名)それぞれに合った介助行ない見守り行なう。 口腔ケアを行なっている。			

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中・夜間問わずその人その人の排泄パターンを把握しトイレ誘導又パット交換を行いホットタオルでの清拭し清潔保持に努めている	日中オムツ使用の利用者が一名いるが、入居者の半数以上は自己のペースで排泄している。排泄状況を見守りつつ、利用者によりさりげなく誘導することで、失禁を減少させ、排泄機能が保持できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前にヤクルトを提供は継続している。又野菜を多く取り入れた献立及び食物繊維も含む食材も使っている。水分補給を常に心掛けてもいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴される方も居られる。行事又は体調不良以外は、一日置きに入浴して頂く様にも努めている又入浴出来ない方には足湯での対応も有り。	入浴は午後を入浴時間帯とし、汗かきの利用者は毎日入浴するなど要望に応じ対応している。職員は利用者が自分でできることを見守りつつ、楽しく入浴できるよう配慮している。入浴時は皮膚の状態を観察し、スキンケアしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人その人に応じて食後は居室にて休んで頂く様に声かけしている。約9日間に1回は、寝具・パジャマ等のリネンを行っている。布団・毛布等干しも行う。室内温度の管理及び湿度調整にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の受診記録に薬の説明書を添付しており又理解している。新しく処方された又変更時等には目的・用法など確認にも怠らない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食前のお膳運びやテーブル拭き食後の食器洗い・お膳拭き、掃除の時のモップ拭き・チリ取り、洗濯干し・洗濯たたみ・清拭巻きその他を各自役割として手伝って下さる。レクとして、トランプ・カルタ取り・折り紙・塗り絵・カラオケ等実施。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りお一人お一人の希望に添えるように努めている。又行事・外出等を計画し又ご家族の協力も含めて実施している。	年間行事の中で外出企画し、季節の花見、ふれあい喫茶、芸能発表会などに加え、昨年のクリスマスシーズンは夜間に姉妹施設のイルミネーション見物へ行った。個人の要望で敬老会への参加や、買い物などの対応も行なっている。ワラビ採りや、畑作りをしたいなどの希望もあり、今後計画して行く予定である。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より現金を預かり出納長で管理し、訪問時に確認・サインを頂いている。 家族と出かける事が出来る入居者は、外出時に買い物に行かれ好みの物を購入されている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話で話したいとの希望があれば、ご家族の了解をとり出来る様支援している。 年賀状等、家族・友人から届いている入居者も数名いる。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	何時でも外の景色を見て頂ける様、カーテンを開け四季の移り変わりを会話を交えて感じて頂ける様工夫している。 季節を感じて頂ける様、その月に応じた物を飾る様にしている。 季節の花を職員のセンスで活かしている。	ベランダ越しに日光が差し込む明るいリビングは、畳コーナーがあり、ソファーやテーブルは動線に配慮し設置されている。重厚な存在感のあるレトロなジュークボックスから、懐かしい曲が流れ、玄関やリビングに家族が撮ったプロ並みの写真パネルや、利用者が描いた絵、壁に利用者と共に作った貼り絵が品良く飾られ、落ち着いた空間を演出している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに置いてあるソファーや畳スペースを自由に利用されている。 気の合う入居者同士で自ら自分の居室を歩き来され雑談されている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で利用されていて使い慣れたタンス・棚・マシン等を持ち込まれている入居者もいる。 自宅での生活を継続したいと、畳の上に布団を敷き休まれている入居者もいる。	居室は、全室ベランダに面し、採光、換気に配慮されている。洗面台と収納棚が全室に設置され、一部は障子があり和の雰囲気となっている。ベットや家具は好みのもが持ち込まれ、畳の生活スタイルを継続したり、手芸の作品や家族の写真を飾り、個別性のある居室作りがされている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室や下駄箱に名前プレートを掲げ、ご自分で分かりやすい様にしている。 廊下・トイレ内・浴室内の手摺りは安全に移動出来るように配慮し見守りをする様にしている。		